ＪＲ東海労ニュース

No.２０５８
２０１５年１０月５日
ＪＲ東海労働組合

戦争反対！安保関連法案撤回！シリーズ⑬

憲法を変えていいのでしょうか？

「戦争反対！安保関連法案撤回！シリーズ」はこれでラストです。これまで安保関連法がいかに危険な法律であるのか、そして国民全体が戦争の協力者になることを訴えてきました。

安倍政権は、安保関連法案の成立を受け、次期参議院選挙では「憲法改正」を公約にすると表明しました。自民党の「憲法改正草案」によると、現憲法の第二章の「戦争の放棄」は「安全保障」と美名を使い、９条２項は「内閣総理大臣を最高指揮官とする国防軍を保持する」と、自衛隊を軍隊にすることを明確にしています。

安倍政権は今も暴走を続けています。しかし、その安倍政権を選んだのは有権者なのです。自民党は組織票があるので、投票率が低いほど自民党に有利になります。つまり、投票放棄や白紙票は、結果的に自民党を有利にします。

前回の衆議院選挙で自民党は、アベノミクスや経済を前面に打ち出し、「戦争法案」を国民に問うことはほとんどありませんでした。皆さん、もう騙されないようにしましょう。次期選挙は、平和か戦争かの岐路に立つと言っても過言ではありません。

ＪＲ東海労は、憲法９条を変えてはならないことを強く訴えます。